研修報告

『新任者養成研修①～④』

【新任者養成研修①】

◇研修日：2022 年 10 月８日（土）
◇テーマ：『医療制度改革による MSW の業務』『医療費・生活相談-医療保険制度』
◇講　師：名古屋掖済会病院　林本隆幸氏、豊田厚生病院　八木隆太氏
◇アンケート　コメント紹介

■医療ソーシャルワーカーとして働く上で業務を覚えることはもちろん、変化し続ける法律や制度に順応していくために常に勉強をしていくことが大切であると感じました。私はまだ１年目で勉強中の身ではありますが、学び続ける姿勢を持ち続けていきたいです。

■どちらの講義もたいへん聞きやすく、また、資料も見やすく、テンポよく動画視聴を進めることができました。特に限度額適用認定証については、私自身、区分などがまだあやふやになっている部分だったので大変参考になりました。ありがとうございました。

【新任者養成研修②】

◇研修日：2022 年 10 月 22 日（土）
◇テーマ：『医療費・生活相談-障害者・自立支援・医療証・特定・小慢』
　　　　　『医療費・生活相談-障害年金』
◇講　師：江南厚生病院　渡邊徹宗氏、佐藤病院　鳥海久美氏
◇アンケート　コメント紹介

■障害福祉サービスを難病患者が利用できることは理解していましたが、今回指定難病と範囲が異なることを知って勉強になりました。指定難病の受給者証を持っていなくても障害福祉サービスが利用できる可能性があるため、厚労省のホームページなどはこまめに確認しようと思います。

■障害年金の細かい知識について知ることができました。どんな人が、どのような要件で障害年金に該当してくるのか、患者の病状や病歴から障害年金に該当してくるか逆引きするには、普段案内している以上の知識が必要だと学びました。また、どのような要件で障害年金に該当したのか、それによって障害年金の受給にはどのような違いがあるか、患者の立場から見られるように意識したいと思いました。

【新任者養成研修③】

◇研修日：2022 年 11 月５日（土）
◇テーマ：『医学知識』　『退院援助-在宅』
◇講　師：上飯田リハビリテーション病院　伊東慶一氏、名古屋記念病院　友松裕子氏
◇アンケート　コメント紹介

■医学的な知識に関して、高次脳機能障害と脳卒中との関連性を学ぶことができました。脳の部位と障害される範囲が違うことを学べたことで、医師のカルテ記載から、患者さんが今後どのようなことで困りそうか、その困りごとに関して MSW としてどんな支援ができるか、予め予測を立てて面談できると思います。退院支援に関しては、これからやっていくことであり難しさも感じますが、患者さんの退院に向けて MSW がやるべきことを時系列に沿って整理できました。院内と院外を繋ぐ役割を担う職種として、地域にどんな情報を伝えれば良いか、誰に何を伝えるべきか、考えながら支援していきたいです。

■退院支援在宅医療に関して、家に帰れない患者はいないということ。自宅に帰りたいと希望する患者がいれば、すべて在宅ケアに移行できる可能性があるということが一番頭に残っている。退院支援では転院調整が多く、エンパワーメント、患者の潜在能力を見逃しているような支援をしていることも多くある。もちろん転院を否定できない病状も多くあるため、在宅を選択できないこともあるが、患者が在宅を

研修報告

望んだ時にどうすれば在宅ケアができるかということの視点を常に持つことが大切だと考えている。それには地域との連携、情報収集の重要性があるのではないかと思っている。在宅医療において様々な関係機関と連携していくわけだが、これからはご家族、患者の意見を尊重し在宅ケアを望んだ時には様々な機関と連携し在宅ケアを検討していきたいと思っている。

【新任者養成研修④】
◇研修日：2022 年 11 月 19 日（土）
◇テーマ：『介護保険制度』『医療費・生活相談～生活保護』
◇講　師：名古屋掖済会病院　中北香奈氏、藤田医科大学病院　森　健氏
◇アンケート　コメント紹介
■介護保険と生活保護について、業務の中でもかなりの頻度で関わる制度だったので改めて制度や背景、考え方について学べ、とても良かったです。特に生活保護についての考え方やクライエントに伝えるときの工夫など実践でも使えることが多く即実践できると感じました。
■在宅調整をするにあたって、介護保険が必要となる支援が多く、制度の再確認ができ良かった。自宅で過ごしにくく感じる場面は、想像できるが、その場面が実際何のサービスを利用すれば解消されるのかはまだ理解できていないため、事例を通して確認することができ、良かった。

新任者養成研修会①～④を振り返って

委員長　外山弘幸

オンライン配信という形で８回シリーズの研修会の実施をしています。本年度は 57 名が応募されています。申し込み締め切り後も数名以上の方より受講希望がありました。この研修会に関心が高いことがわかると共に、募集期間の設定なども考慮が必要であることが次年度以降の課題としてわかりました。57 名のうち、38 名が愛知県医療ソーシャルワーカー協会会員で 19 名が会員外でした。また会員外の 19 名のうち、5 名は県外からの参加でした。また就職して 1 年以内の方が 38 名、1～3 年以内の方は 11 名、3 年以上の方は 6 名という構成になります。それぞれの状況でこの研修会の果たす役割も異なると思われます。

この原稿を記載している現段階では、すでに 7 回まで配信が始まっており、残すところあと 1 回になりました。本年度は 8 回のうち 2 回は Zoom を使ったオンラインで実施を計画しました。それは「面接技術」や「自己覚知」という内容は、録画の放映では内容が伝わりにくいことからそのようにさせていただきました。参加者にとっても「リアルタイムでの研修では、実際に意見交換ができるため、面白い。全てがリアルタイムというのは難しいと思うが、リアルタイムでの研修を増やしていくことも良いのではないか」との意見も聞いています。今後も参集・対面等で実施できる研修機会も増えていけば良いと感じます。

講師を担っていただいた方には、聴講する立場になってのわかりすいご講演と共に受講生へのあたたかいメッセージも送っていただき感謝しております。無事にあと 1 回を終えたいと思います。